

2015年1月15日

2015年 イビデン株式会社 賀詞交換会

2015年1月15日午前11時より、イビデン株式会社(本社:岐阜県大垣市、代表取締役社長:竹中裕紀)は、お取引先様 約400名にご出席いただき、2015年の賀詞交換会を大垣フォーラムホテル(大垣市万石)において開催いたしました。

◆竹中社長挨拶(要約)

2014年の世界経済ですが、米国経済は順調に拡大した反面、欧州経済は弱含みで推移しました。中国やインドなどの新興国の成長率もこの数年、鈍化傾向にあり、世界経済は変化を読みにくいものになっています。

一方、日本経済は、昨年末の総選挙の結果、経済最優先の政策が継続されることになりましたが、先行きは依然として不透明であります。

こうしたなか、当社はあらゆる変化に対応できる企業を目指し、中期経営計画「Challenge IBI-TECHNO 105 Plan」を進めております。その柱となるのが、事業の競争力強化と新製品の開発であります。事業競争力の強化は、市場変化への対応力を強化し、新製品の開発は安定した持続的な成長を実現します。中期経営計画の3年目となる2015年は、より強靱なイビデングループを目指して、以下の施策に注力していきます。

1つは、1月1日付けで実施した組織改革であります。2年前より当社は、セラミック部門やPKG部門で統合を進め、その結果、事業の安定や独創的な技術の開発などの成果がありました。この経験を踏まえ、今年度はPWB部門をPKG部門に統合しました。これにより、コスト競争力を上げ、PWBの世界市場シェア上位を目指したいと考えています。さらに新製品開発強化のため、生産技術部門を技術開発部門に統合しました。これにより製品開発のプロセス開発や設備開発などを一貫して行うことが可能になり、より迅速で独創的な新製品開発を実現します。

もう1つは人材育成であります。人材育成で当社が最も重視しているのが「現地現物」と「自掛り」です。これは技術者をはじめ全社員が現場に出て、自分自身で努力し、改善することで問題を解決することです。この「現地現物」と「自掛り」が問題の本質的な改善と人材の成長をもたらします。特に保全部門においては、お取引様にもご協力をいただき、自掛り保全を進めた結果、設備の故障率が大幅に低下しました。設備の特徴を理解したことで品質改善も進み、歩留りも向上しました。今後、原料や素材についても皆様と理解を深めたいと思います。皆様に真のパートナーとして、当社の現場を知っていただき、共に汗を流すことで改善や製品開発を進め、共に強くなっていきたいと思っております。

昨年より地域紛争や自然災害など様々なリスクが顕在化しています。世界経済も冒頭で申し上げましたように、先行きは不透明です。こうした厳しい状況にあっても、皆様にはしたたかに、しなやかに、全力を尽くして頑張っていていただき、良い年末を迎えられることを祈念いたします。

以上